



資産運用こぼれ話

きん 金と株式の違い

寄稿：岡本 和久

よく講演会などの質疑応答で退職後の資産運用のために金（きん）の投資はどう思いますかという質問を受けます。私の答えは単純です。金よりは株式の方が長期投資には向いているということです。なぜなら株式は長期的に価値が増加していきます。しかし、金は装飾用、工業用などの需要によって価格は変動しますが、金そのものの価値が増えているわけではないのです。



株式を保有するという事は企業のオーナーとなるということです。企業がビジネスを行うためには資産が必要です。資産を保有するにはお金が必要ですが、そのお金は二種類しかありません。ひとつは借りてきたお金です。銀行から融資を受けたり、債券を発行したりして調達した資金です。もうひとつが、株主が出資した資金です。この資金は資産からすべての借りてきたお金を返済した残りです。

企業は資産を活用して得た売上から借りてきたお金に元利金を支払います。そしてその他のすべての費用を支払った残りから配当金が支払われ、さらに内部留保分が株主のものとして株主資本に加えられます。こうして株主が保有する株主資本は増加していくのです。

もちろん、一つの会社のみを保有しているとその企業が倒産してしまうリスクはあります。しかし、たくさんの企業を保有していればそのすべてが倒産する確率は低いでしょう。また、リーマンショックの後のように、ある時期多くの企業が苦境にあえぐこともあります。しかし、世界経済はなだらかに成長しているのですから、それが長期にわたって続くことはないでしょう。ここに世界の株式に長期・分散投資をすることが大切な理由があります。

世界に分散された投資信託などを長期で保有していれば、その投資信託を経由して間接的に保有している株主資本は増加を続けます。つまり、価値が増加していくのです。金にはそのようなことはありません。買い手と売り手の間の需給関係で値段が決まるだけです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

確かに、金には別の効用はあります。かつて知り合いだったアメリカにいた中国人のファンド・マネジャーは南京から家族が台湾に移住する時に袋に入った金を渡され、「これでお前はアメリカに行き自立しなさい」と言われたと聞きました。彼は努力をして成功をしたのですが、理由はともかく、金は国を超えて多くの人が保有したいものであることは事実です。そのような用途はあるでしょう。ただし、あくまで手に持って運べる程度の量に抑えて置くべきだと思います。(この記事は投資手帖 2018年9月号に寄稿した文章に加筆修正したものです)